

郷土を旅する「お法使祭」

菊陽町無形民俗文化財に指定されている「お法使祭」が10月30日に行われ、ご神体が菊陽町辛川地区から益城町平田地区へ受け渡されました。お法使祭は益城町の津森神宮の神事の一つ。菊陽町、西原村、益城町の全12地区で1年ごとに持ち回るお祭りです。600年以上前から受け継がれています。当番地区では「御仮屋」を建ててご神体を安置し、翌年みこしに入れます。

次の地区に受け渡します。特徴的なのが、みこしを受け渡す前に田畑に投げて転がす風習。担ぎ手たちの威勢のいい掛け声とともに、豪快にみこしが投げられると観覧者からも大きな歓声が上がります。次にご神体が同地区に戻ってくるのは12年後。地震からの早期復興の祈りとともに、ご神体とみこしは旅を続けます。



1 担ぎ手たちの威勢のいい掛け声とともにみこしが宙を舞う 2 みこしへご神体を入れる遷宮祭 3・6 笛や太鼓が響く道楽 4 みこしには住民の復興の祈りが込められている 5 神事で優雅な舞を踊る巫女 7 路上で観覧する人たちが次々とさい銭が寄せられた 8 地域の女性たちによる踊りの披露 9 辛川区の担ぎ手から次の地区へ豆絞りの受け渡しが行われた



1 菊陽武蔵剣豪太鼓の力強い演奏 2 練習を重ねた歌謡曲の披露 3 熊本城をテーマにした吟詠 4・7・8 ロビーではさまざまな作品が展示された 5 癒しのフラダンス 6 迫力ある武蔵会の演武 9 文化協会から功績のあった3人に表彰状が贈られた

芸術の秋「菊陽町文化祭」

菊陽町文化協会主催による文化の祭典「第41回菊陽町文化祭」が11月3日～5日に菊陽町図書館で開催されました。会場では、菊陽町文化協会に加盟している団体などのステージ発表や作品展示が行われ、多くの観客で終日にぎわいました。

展示には、書道、切り絵、生け花、陶芸や模型など各種団体の作品がずらりと並びました。作者の思いがこもった渾身の作品に来場者は目を輝かせて見入っていました。